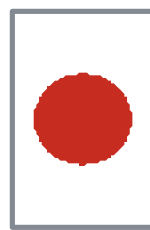




『世界の半分、女子アクティビストになる』ケイリン・リッチ著 晶文社 2019



日本の刑法は100年も前に男性だけが作ったものだから女性にはかなり不利な部分があるって知ってる？ 去年、東京医大ほかの入試で女子のほうに点数を下げられて入学できなかったことが何年も続いていたことが問題になったよね。男女平等っていわれているけど、それは女性が声を上げていかないと実現しないこと。我慢していれば報われる？ 日本で女性が選挙権を持ったのだってほんの70年前。卑弥呼や紫式部や与謝野晶子がどれほど活躍しても選挙権はなかった。

この本の著者はアメリカ人なので、どうやって女性の意見が取り上げられるようになるか、アメリカでの働きかけ方を説明しています。日本でも参考にできる部分もあります。

まず最初に自分に偏見がない、と自信がある？ でも偏見があるのが人間。じぶんをテストする勇気がある？ ハーバード大学のプロジェクト・インプリシット

<https://implicit.harvard.edu/implicit/japan/> これ、日本語でテストできます。あなたの無意識の偏見に挑戦してみましょう。

私の友人でとても優しく友人の多い女性がいた。けれどその人が部落出身の人を「あの人たちも悪いのよ」と言っているのを聞いて、どんな人も偏見から逃れるのは難しいんだと思った。その人は外国人（韓国や中国や黒人の人も）にはとても優しいんだよ。自分の偏見がわかれば、自分が進んで偏見をすてる対策もわかる。ぜひチャレンジを。

どうやって運動を始める？ あなたが問題だと思うことを学校のみんなに話す。ソーシャルメディアで注目してもらう。校長や教育委員会に支援してもらう。

地元の有力者（非営利団体・企業・事業主・メディア事業者）にどうやってアプローチしたら良い？ そもそも有力者ってどんなひとたち？ 単なる女子高生の言うことなんか聞いてくれない？ いいえ、特に政治家にとってあなたたちはこれからの日本の大切な票田、うまく仲間を集めて話をすれば、動いてくれる可能性は大。手紙の書き方、イベントの開きかた、プレゼンテーションのしかた、署名集め。

街のみんなに問題を知ってもらうには決起集会、行進、パーマシェイヴ、ゲリラアクション（フラッシュ・モブなど）、横断幕、座り込みなど。電話作戦を成功させるシナリオや電話をかける適切な時間帯。

TwitterやFacebookでイベント参加を呼びかける（トロールとよばれる荒しにあったら、ブロック、非表示、ミュートが正解だけど、危険を感じたらスクリーンショットを撮ってサイトの運営者や大人に報告すること）、ウェブサイトやポッドキャストを作る。

問題だと思うことをメッセージにするとき「どうしてこの問題が大切」「大勢の人が個人的なかかわりを感じる部分がある？」「みんなのところに響くストーリーを語れる？」 FOMO (Fear of Missing out) 自分だけが大事な情報を知らないのではないかという恐れを利用すると効果的。

新聞に投書する、ヒューマンライツナウ、日本国際ボランティアセンター、アムネスティ日本、UN WOMEN日本事務所 ハフィントン・ポスト日本版、バズフィードジャパン、BLOGOS、ハーバー・ビジネス・オンライン、Yahoo!ニュース個人、MetooJapanに意見を送る。

もしあなたにインタビューをしたいというメディアが現れたときの受け答えのコツ（つなぎのことば）まで載っています。

広告デザインのヒントやプラカードの作り方。

あなたが運動に疲れ、バーンアウト寸前になったら（疲れたり、人に腹が立ったり、よい面に目がいかなかったり）、セルフケアの方法も、人にはいえない「困ったかも」を手助けするサイトも掲載されています。いまずぐ運動を始めなくても、自分が何に興味があるか、考えながら読んで欲しい。そう、あなたには世界を変えるチカラがあるんです。まだ、信じられないかもしれないけれど。（2019年11月 眞鍋由比）

